

I LOVE ART 17

# プレイプレイアート展



アーティスト:

- 伊東忠太
- アレクサンドル・ロトチェンコ
- バックミンスター・フラー
- ルネ・マグリット
- ダイアン・アーバス
- アンディ・ウォーホル
- ソル・ルウィット
- ニキ・ド・サン＝ファル
- デュアン・マイケルズ
- ナムジュン・パイク
- オノ・ヨーコ
- ディヴィッド・ホックニー
- ジョエル＝ピーター・ウィトキン
- 堀尾貞治
- ジョナサン・ポロフスキー
- デイヴィッド・ハモンズ
- ファブリス・イベール
- オラフ・ニコライ
- 小沢剛

ゲストアーティスト:

小谷元彦

Motohiko Odani 1972- 日本  
日本の仏像彫刻や近代彫刻を経て、  
独自の発展をした日本の「彫刻」という  
ジャンルに対し、新たな脱構築に向け  
て、研究と実践を行う。  
Surf Angel (Provisional Monument 2) 2022  
ミクストメディア(ステンレス、LED、ABS、  
スタイロフォーム、ウレタン、鉄粉)  
協力: Reborn-Art Festival 実行委員会  
photo by Keisuke Hirai

会期:

2023年3月19日[日] → 7月23日[日]

休館日: 月曜日(7/17は開館) 開館時間: 11時より19時まで

入館料: 大人1500円 / 大人ペア2600円 / 学生(25歳以下)・高校生・70歳以上の方

身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳お持ちの方、および介助者(1名様まで) 1300円 / 小・中学生 500円

\*会期中、ご本人は何度でも展覧会へ入場できるパスポート制チケット。再入場の際、ご本人であることを証明するものをご提示下さい。

主催/会場: **ワタリウム美術館** 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-7-6 Tel:03-3402-3001 Fax:03-3405-7714  
Email: [official@watarium.co.jp](mailto:official@watarium.co.jp) <http://www.watarium.co.jp>

ご取材のお申込は [official@watarium.co.jp](mailto:official@watarium.co.jp) までご連絡ください。

**WATARI-UM**  
The Watari Museum of Contemporary Art



あなたはここで、風に向かって今まさに波の上に立つ天使を目撃します。

あなたの前に立つのは「Surf Angel (Provisional Monument 2)」。昨年、石巻の芸術祭「リボン・アート・フェスティバル2021-22」のために小谷元彦が制作した全長6メートルの天使です。

その天使をナムジュン・パイクのロボット「K-567」が出迎えます。1964年、パイクが制作した世界初のアートロボット「K-456」の娘として生まれたロボットです。そしてファブリス・イベールが制作した噴水「ベシーヌの人」が身体の11の穴から水を撒いています。1991年にフランスの村ベシーヌで誕生して以来、未来の人間、地球外生物のようなこの噴水は、周囲に溶け込み、今や100体以上ものクローンやコピーが地球上に広がっています。

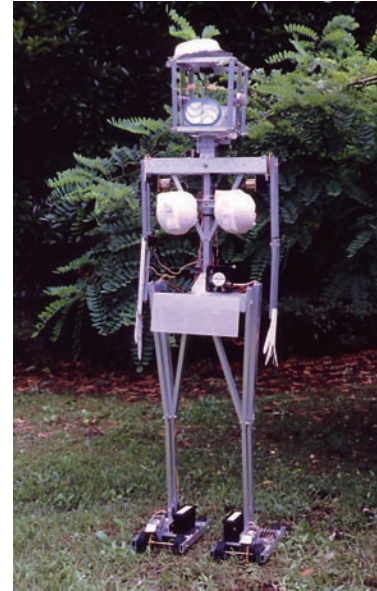
あなたがこのアートの遊び場に立つならば、  
未知のメッセージに出逢うでしょう。  
あなたがアートと対話するならば、その瞬間、  
あなたの生活や現実にもアートが関わってくるでしょう。

もう一つの世界や次元への乗り物を表す幾何学形態マカバの頭部をもつ天使は、サモトラケのニケの像と同じ服を着ています。バランスを取っているのか、それとも浮遊しているのか、無防備なほど両手を大きく十字方向に広げた姿には、さまざまな記号を重ねています。

—— 小谷元彦 2022年 Surf Angel (Provisional Monument 2) 解説テキストより

### ナムジュン・パイク

Nam June Paik 1932-2006 韓国  
TVやビデオなどのメディアを初めてアートに取り入れた「メディア・アート」の第一人者。  
その作品にはテクノロジーと東洋の思想の融合が見られる。



ナムジュン・パイク ロボット K-567 1993  
ステンレス棒、アクリル絵具、アルミ皿、プラスチックケース、金網、紙製パッド、充電器、リモコンなど

本展では、ワタリウム美術館のコレクションより19人のアーティスト、さらにゲストアーティストとして小谷元彦を迎え、古代ギリシアから上野公園まで、作品約150点を広場の中の風景や人物に見立て展示します。

結局、人間の活動は“いかにエネルギーを最小にしつつ膨張あるいは流れていくか”ということにあるんだろうね。遊牧民族は、それをひとつの典型として知っていた。別の言葉で言えば“遊び”ですね。これが次の世代の最大の問題ね。—— ナムジュン・パイク 1981年 『遊学の話 松岡正剛と10人の遊学者たち』(工作舎)より

この展覧会は、突如、地球上に舞い降りた天使たちを、  
あなたにみつけてもらうための“アートの遊び場”かもしれない。

### オラフ・ニコライ

Olaf Nicolai 1962- ドイツ  
文学、哲学、記号学を学んだのちに、「収集(コレクション)」を主なコンセプトとして活動を展開する。



上野公園/テント 1999 テント、毛布、写真  
(図版は写真のうち一枚)

### アンディ・ウォーホル

Andy Warhol 1928-1987 アメリカ  
1950年代、商業イラストを描く一方、ポップ・アートの作品制作を試みる。大衆文化のアイコンを題材にした作品で、圧倒的な支持を得た。



フラワーズ 1970 シルクスクリーン

## 主な展示作品：

### ファブリス・イペール

Fabrice Hyber 1961- フランス  
作品の多くはインタラクティブな観客参加型であり、その後の作家達に多大な影響を与えている。



ベシーヌの人 1988- 1998  
ポリエステル樹脂、グラスファイバー、塗料  
photo by Shuji Goto

### デイヴィッド・ハモンズ

David Hammons 1943- アメリカ  
グランド・ピアノと石炭の間をオモチャの車が走り抜ける「ブルー・トレインを追いかけて」(1990)という作品で、黒人社会とジャズを強烈に表現し、一躍20世紀末のアメリカを代表するアーティストとなった。



思いがけないシンフォニーII 1991  
クリスタルガラス、電球、スチール、アルミニウム、ガラス

### バックミンスター・フラー

Buckminster Fuller 1912-1983 アメリカ  
『宇宙船地球号操縦マニュアル』などの著作や、「ダイマクション地図」「ジオデシック・ドーム」といった作品を通して、「世界をいかにして機能させるか」という課題を生き追い続けた。



4D タイム・ロック 1927-1929 紙に水彩

宇宙のデザインの法則を手に入れる道は開かれている。  
問題は制度としての政治や宗教における人間ではなく、個人としての人間が法則の発見者たり得るかということに尽きる。

——バックミンスター・フラー 1982年

東京での講演会より

### ジョナサン・ボロフスキー

Jonathan Borofsky 1942- アメリカ  
夢を題材に、コミカルな非現実のふりをしながら、社会問題や人間の命題を凝縮し潜ませた作品を制作。



分子男 1983 アルミニウム、サンドブラスト仕上げ

### ソル・ルウィット

Sol Lewitt 1928-2007 アメリカ  
情緒性や表現生を含まない幾何学的立体構成によって、ミニマル・アートやコンセプチュアル・アートを先導した。



ピラミッド 1986 木に塗装

### 堀尾貞治

Sadaharu Horio 1939-2018 日本  
前衛美術運動をリードした具体美術協会(1972年解散)の一人。60年代以降、布や石、材木など身近な廃物を用いた作品やパフォーマンスを通じ、日常生活にアートを取り込む活動を展開。



あたりまえのこと 2000  
二宮金次郎の像、木片に塗装

### オノ・ヨーコ

Yoko Ono 1933- 日本  
「インストラクション」と呼ばれる言葉による一連の作品アクションやパフォーマンス、オブジェまで多彩な活動を展開。



Play It by Trust (信頼して駒を進めよ)  
1986-87 ブロンズに塗装

### 小沢剛

Tsuyoshi Ozawa 1965- 日本  
東京藝術大学在学中から「地藏建立」を開始。1993年から「なすび画廊」や参加者と相談しながら作品を制作する「相談芸術」を開始。



なすび画廊 - 小沢剛 1995  
牛乳箱、紙に印刷、塩化ビニール

### ニキ・ド・サン=ファール

Niki de Saint-Phalle 1930-2002 フランス  
神経衰弱で入院した際、絵を描き始め、その後「射撃絵画」のパフォーマンスを開始。「ナナ」シリーズなど、女性をテーマとした作品を多く制作する。



ニキ・ド・サン=ファール + ジャン・ティンゲリー  
鉄の台座の上で踊っている小さなナナ 1981  
ポリエステル樹脂にポリウレタン塗料、鉄

photo by Noriaki Imai

## ルネ・マグリット

René Magritte 1898-1967 ベルギー

自身の作品を「目に見える思考」といい、「言葉とイメージ」の問題を追求した。デザインや広告など、20世紀の文化に与えた影響は大きい。



報われた美德(「たくらみのない情景」より) 1934  
ゼラチン・シルバープリント

**総合的肖像に反対し、スナップショットに賛成する。  
…リアルで現代的なものをすべてを評価せよ。  
そうすれば我々は演技者ではなく、ほんとうの人間になる。  
—— アレクサンドル・ロトチェンコ 1928年**

雑誌『新レフ』第4号より

## アレクサンドル・ロトチェンコ

Alexander Rodchenko 1891-1956 ロシア

芸術運動「ロシア構成主義」の創立者の一人。絵画・写真・デザインなどの分野で革新的な試み続け、20世紀のアヴァンギャルド芸術に大きな足跡を残した。



らっぱを吹くビオネール 1930 プリント

## 伊東忠太

Chuta Ito 1867-1954 日本

建築家、建築史家。日本建築史を創始。また中国、インド、中近東を調査し東洋建築史の体系を樹立。独自の建築進化論を用い、「築地本願寺」(1934)などを設計。



エフェソスの円形劇場 1904-5 乾板写真

## ジョエル=ピーター・ウィトキン

Joel-Peter Witkin 1939- アメリカ

手術途上の性転換者や死んだ胎児、手足が変形してしまった女性、解剖中の屍体などを被写体にして、独特の美意識で、神話的な世界を創りそれを撮影する。



ケヴェグの鳥、ニュー・メキシコ 1982  
ゼラチン・シルバープリント

## ダイアン・アーバス

Diane Arbus 1923-1971 アメリカ

フリークスなど、独特の被写体と対峙し、アメリカ社会のダークサイドを人物写真を通じて表現した。



無題 1970-1971 ゼラチン・シルバープリント

## ディヴィッド・ホックニー

David Hockney 1937- イギリス

1950年代後半の平面的でグラフィカルな写真から、西海岸時代の透明で色彩豊かな作品まで、そのポップで具象的な作品が幅広い人気を集める。



スプリンクラーのある芝生 1976 カラープリント

## デュアン・マイケルズ

Duane Michals 1932- アメリカ

自宅などの日常空間で自ら演出した場面を、多重露光やブレの多用によって、超自然現象や夢の中の光景のように撮影する。



チャンス・ミーティング 1970 ゼラチン・シルバープリント 自筆入り